

いのちとくらしをまもる
防災減災

国土交通本省同時発表

令和5年3月24日

九州地方整備局

流域治水推進室

六角川水系六角川等について

九州地方で“初”となる特定都市河川に指定
流域治水の推進へ！！

国土交通省では、令和5年3月28日、九州地方で初となる特定都市河川に六角川水系六角川等を指定します。

指定に伴い、武雄市、嬉野市、佐賀県、九州地方整備局が一堂に会し、調印式を行います。

- 流域治水の本格的な実践に向けて、国土交通大臣は、令和3年11月1日に全面施行された流域治水関連法の中核をなす特定都市河川浸水被害対策法（以下「法」という。）第3条第1項の規定に基づき、令和5年3月28日に、一級河川六角川水系六角川等計33河川について、九州地方で初の特定都市河川として指定します。
- 六角川水系六角川等では、今後、法第6条の規定に基づく流域水害対策協議会を組織し、河道掘削等のハード整備の加速化に加え、流域における貯留・浸透機能の向上、水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり等の浸水被害対策を流域一体で計画的に進めるための流域水害対策計画の策定を進めてまいります。また、指定後、河川への雨水の流出増加を抑制するための対策を義務付ける運用が開始されます。
- なお指定に伴い、「六角川水系特定都市河川及び流域の指定」確認書調印式を下記の日時に行います。
 - 日時 : 令和5年3月28日（火）11:00～（30分程度）
 - 開催場所 : 佐賀県庁旧館 4階 正庁
 - 出席予定者 : 調整中

(添付資料)

- 別紙1 「流域治水」の本格的な実践に向けた六角川水系六角川等の特定都市河川への指定
- 別紙2 「六角川水系特定都市河川及び流域の指定」確認書調印式 式次第（案）
- 別紙3 「武雄河川事務所 流域治水支援窓口」について

<問合せ先>

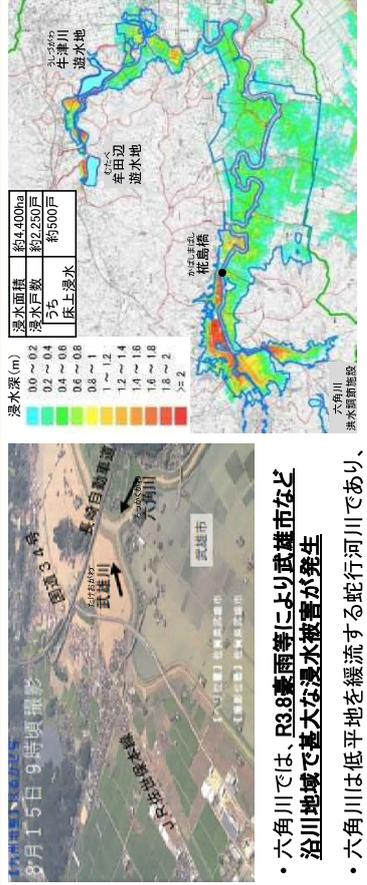
国土交通省九州地方整備局・流域治水推進室

河川部 河川計画課 課長 酒匂 一樹（内線3611）

課長補佐 今井 勝一（内線3612）

電話092-476-3523

六角川の特徴と特定都市河川の指定までの動き



六角川では、R3.9豪雨等により武雄市など沿川地域で甚大な浸水被害が発生

六角川は低平地を經流する蛇行河川であり、約6mの干満差による潮位変動を受け、洪水時の排水が困難

河道等の整備のみでは早期の浸水被害解消が困難であり、特定都市河川の指定により、「流域治水」を本格的に実践



R1.8 令和元年8月豪雨による浸水被害

R1.12 「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」策定(激特事業等による再度災害防止対策に着手)

R3.8 令和3年8月豪雨による浸水被害

R3.11 改正特定都市河川浸水被害対策法の施行(特定都市河川の指定を全国の河川に拡大)

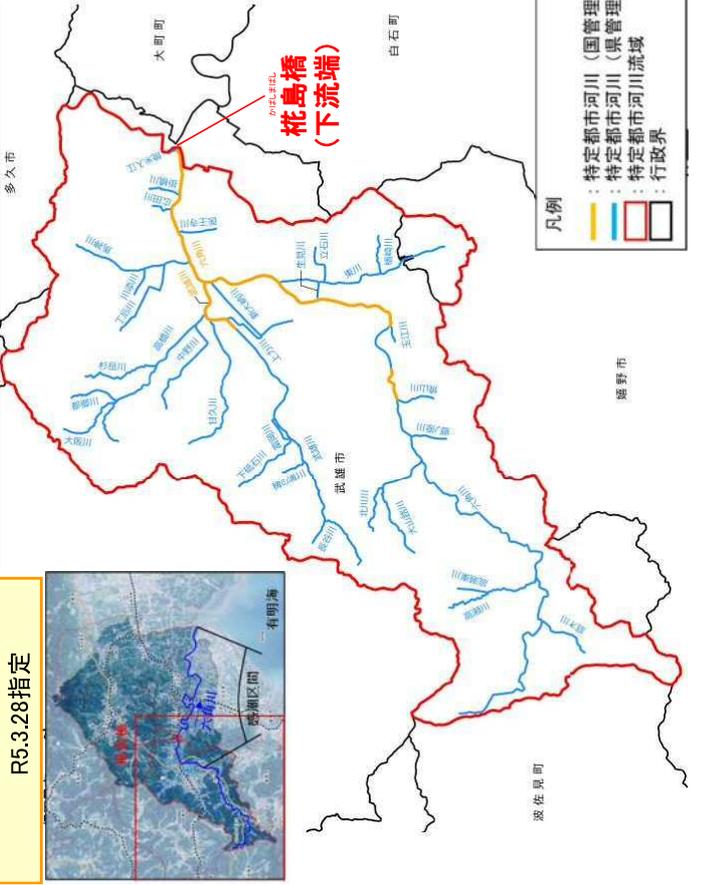
R4.3 「新・六角川水系流域治水プロジェクト」策定(「特定都市河川浸水被害対策法等の活用」を位置づけ)

R4.11 六角川水系流域治水協議会開催

六角川(花島橋より上流)の特定都市河川指定に向け調整を進めることを流域関係者と確認

特定都市河川の指定内容

六角川(花島橋より上流)
特定都市河川の指定
R5.3.28指定

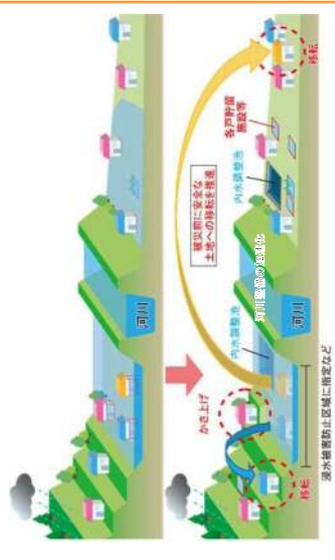


法的枠組み(特定都市河川制度)を活用した「流域治水」の本格的実践

- 【流域水害対策の方向性】
- 令和3年8月豪雨規模の洪水に対して、床上浸水被害の解消を目標とし、河川対策、流域対策、土地利用のルールづくり・住まい方の工夫等の多層的な浸水被害対策を講じる
 - まちづくりと調和した対策により、「水災害に強く、住み続けられるまちづくり」を目指す
 - 特に、水害常襲地区(武雄市の楯地区、朝日地区、北方地区、北方地区)の早期の被害軽減に向け、重点的に対策を実施

【対策のイメージ】

- 河川整備の加速化
 - ・ 河道掘削、六角川洪水調節施設の整備
 - ・ 支川や水路の浚渫
 - 流域における雨水貯留浸透機能の強化
 - ・ 内水調整池や遊水公園の整備
 - ・ 「田んぼダム」やため池の治水活用
 - 土地利用のルールづくり・住まい方の工夫
 - ・ 浸水被害防止区域や貯留機能保全区域等の区域指定の検討
 - ・ 災害リスクが高いエリアからの移転や土地利用規制 等
- 多層的な浸水被害対策(イメージ)
- ※浸水被害対策については、今後の流域水害対策計画の検討により変更する場合がある



「六角川水系特定都市河川及び流域の指定」確認書調印式

日時：令和5年3月28日（火）

11：00～11：30

場所：佐賀県庁旧館4階 正庁

式次第（案）

1. 開会

2. 挨拶

武雄市

嬉野市

佐賀県

九州地方整備局

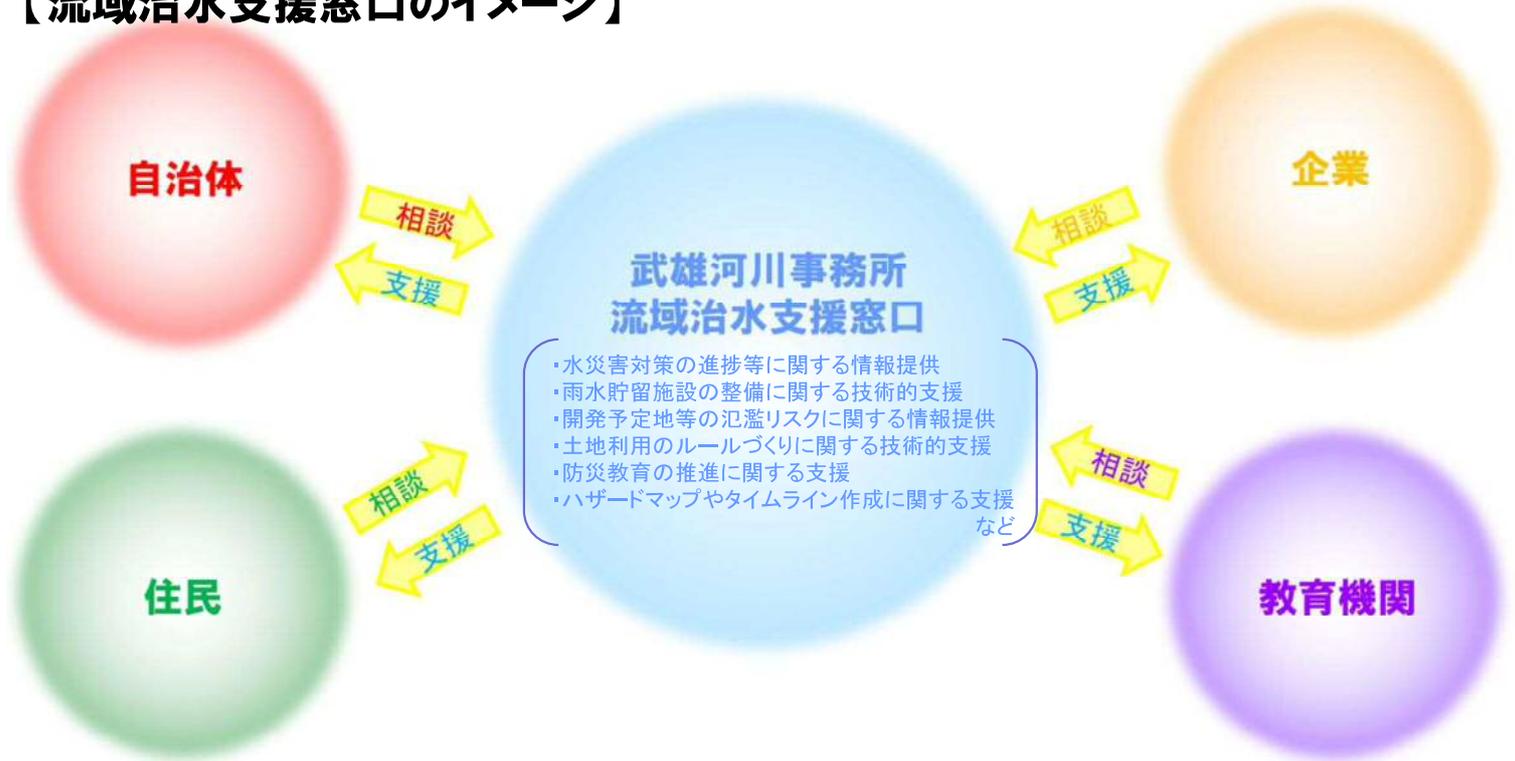
3. 調印

4. 記念撮影

5. 閉会

- 気候変動に対応するためには、従来の治水対策（河道掘削、築堤など）だけでなく、流域・氾濫域におけるまちづくり等と一体となって水災害対策に取り組むことが不可欠
- このため、武雄河川事務所とまちづくり部局間の連携強化及び住民や企業等からの問い合わせ先の一元化により、あらゆる主体による流域治水の取組を円滑に推進することを目的として、「武雄河川事務所 流域治水支援窓口」を設置（R5年1月20日）していますのでご活用下さい。

【流域治水支援窓口のイメージ】



【問い合わせ先】

「武雄河川事務所 流域治水支援窓口」
 武雄河川事務所1階 ロビー横
 電話：0954-23-5157（直通）
 メール：qsr-takeo@mlit.go.jp



番匠川 流域治水の取組

■河川協力団体との意見交換【佐伯河川国道事務所】

- 令和5年1月25日に佐伯河川国道事務所において河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」の代表者の方々と“流域治水”について意見交換会を開催
- 佐伯河川国道事務所（7名）、河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」（9名）により、地球温暖化と気候変動、近年の洪水被害の状況、流域治水の必要性や取組の事例等を題材にディスカッションを行った



▲意見交換のようす



▲意見交換の説明資料

■成果

- 団体からは「流域治水で何か取り組めることを考えたい」、「流域治水について、一般の住民にどう広めていくか」、「佐伯市の広報誌に載せることで市民に広められないか」、「番匠川版の流域治水資料を作ってはどうか」など、取り組みに前向きな意見があがった
- 引き続き、連携を取りながら実施できるものから進めて行くことを確認した

番匠川 流域治水の取組

■第2回 河川協力団体との意見交換【佐伯河川国道事務所】

- 令和5年4月18日に佐伯河川国道事務所において河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」の代表者の方々と流域治水について2回目の意見交換会を開催
- 佐伯河川国道事務所（9名）、河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」（8名）により、第1回のふりかえりと前回話題となった戸別貯留について具体事例を紹介し、今後の流域治水の展開についてディスカッションを行った



▲意見交換のようす



▲戸別貯留の具体事例を用いて具体策を議論した

あうちで雨水活用をはじめませんか？

ポリバケツで雨水タンクづくり

最新の設備に負えるためだけではありません。車輪の車軸を思い込んで作る雨水タンクは、半ついで簡単にできます。自動はねの向きに違い、接続しやすいバケツは、実は意外にも存在します。

つくる際のチェックポイント

- 雨樋の径にタンク径を比べ、スズはありませんか？
- タンクが転倒しにくいように、重たいためは避けたい
- 雨どりに穴をあけ入れ込みのときは、タンクの裏にコンクリートブロックの置きはり固定
- 雨どいの材質と太さは、本家の雨どい径に合わせ、OK！確認するため、確認では必須

雨水タンクの材料

ポリバケツ （容量1000L）	水道用ホース （径1.5インチ）	雨水市民の会販売品 レインキャッチ （容量1,000L、990円）
コンクリートブロック （径100mm）	雨水タンクの設置 （容量1,000L）	雨水タンクの設置 （容量1,000L）

お問合せ NPO法人 雨水市民の会
URL: www.rainwater.jp Fax: 03-6677-1436
E-mail: info@rainwater.jp

■成果

- 団体からは「地域の農業者で田んぼダムに取り組んでいる」ことや、戸別貯留については「これなら個人レベルでできる」「住民のひとりひとりの意識を高めるのに有効だと思う」「効果を表す工夫を考えていきたい」「とにかく、やってみよう」など、取組を進める意思を確認した
- 引き続き、取組の拡散や、効果の出し方等を検討していく

■ 農業者による「田んぼダム」の取組み（水田の貯留機能向上）

- 昨今の気候変動による水災害リスクの増加によって、これまでの河川整備等の治水対策だけでなく、番匠川流域で生活するあらゆる関係者（国・県・市・企業・住民等）が協働して対策を推進
- 令和5年度は番匠川支川久留須川において、河川協力団体（番匠川流域ネットワーク）代表の平野氏が地域を巻き込み「田んぼダム」を試行（実施主体：大分県）

▼面積は約6ha



■自分自身の防災行動計画表～マイ・タイムラインづくり～【佐伯河川国道事務所】

- 令和4年11月15日に佐伯市立鶴岡小学校において「マイ・タイムラインづくり」を開催
- 佐伯河川国道事務所（5名）、大分県（2名）、佐伯市（2名）、河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」（1名）による関係機関で連携して、4年生3クラス94名を対象に行った
- 関東地方整備局 下館河川事務所が考案したマイ・タイムライン普及ツール「逃げキッド」と解説ビデオを活用し、近年の災害、番匠川の洪水、気候の変動、ハザードマップの見方、河川情報の取り方等を含めて取り組んだ



▲4年1組



▲4年2組



▲4年3組



▼結果報告

▲ハザードマップで
浸水範囲や避難所等を確認



▲逃げキッドを活用して
マイ・タイムラインを検討



■成果

- 参加者からは「ハザードマップで自宅の浸水深がわかり、早めの避難が必要だと気づいた」「早めに準備することが大事だと思った」「安全なところへ移動するのが大切だとわかった」「これを活用して避難を考えたい」などの意見があった